

シラバス (家庭) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	1年	類型	普通科
単位数	2	教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる	出版社	第一学習社		
副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科ノート ・調理実習ノート基礎編 						

学習の到達目標

<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>
--

授業の概要

<p>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てます。また、学習内容に応じて一斉指導、個別指導、グループ指導を行い、視聴覚教材も多く活用します。</p>

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。
評価の対象	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・授業時の観察 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・ワークシート ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート（振り返りなど） ・課題（レポート・作品など） ・授業時の観察 など
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。 ・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。 <p>5 … 十分満足できると判断できるものうち特に程度の高いもの</p> <p>4 … 十分満足できると判断できるもの</p> <p>3 … おおむね満足できると判断できるもの</p> <p>2 … 努力を要すると判断されるもの</p> <p>1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の見点に立って、乳児期から高齢期までのライフステージの特徴と課題を見直し、その課題を他者と関わりながら達成し、生まれてから死ぬまで発達し続けていくという考え方を理解している。 ・ライフイベントや人生の転機、あるいは家族の変化や社会変動などによって生じる課題を乗り越える際に、誰もが同じような方法や選択で達成するのではなく、その時の身近な他者や社会との関わりを通して一人一人が異なる過程をたどり、様々な生き方があることを理解している。 ・生活の営みに必要な家族、友人、健康、金銭、もの、空間、技術、時間、情報など、生活する上で重要な要素が生活資源であることに気付き、それらに関わる情報を収集、整理することの重要性を理解している。 	1 学期 期末考査
	5章 食生活をつくる 第1節 人の一生と食事 第2節 栄養と食品 第3節 食生活の安全のために 第4節 食生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解している。 ・無駄のない食材の使用や、環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考えることができる。 ・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とその主な働きについて理解している。 ・食品表示、栄養表示を通して内容を読みとり、身体状況に応じた食品を選択することができる。 ・食品の選択・計量・器具の扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得することができる。 	
	8章 経済生活をつくる 第3節 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会実現のために、環境負荷の少ない生活をめざして、生活意識や生活様式を見直し、環境に調和したライフスタイルについて考えることができる。 	
	ホームプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームプロジェクトの課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行う。 ・2学期最初の授業で研究発表会を実施する。 	
2 学期	7章 住生活をつくる 第1節 人の一生と住まい 第2節 住生活の計画と選択	<ul style="list-style-type: none"> ・地震などの自然災害や、火災などの人的災害、家庭内事故などを防止するためにはどのような安全対策が必要か考えることができる。 ・人生における各ライフステージに必要なとされる居住条件と住まい方について、ユニバーサルデザインを中心に、住まいの中で工夫・改善していく方法について考えることができる。 	2 学期 期末考査
	3章 充実した生涯へ	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解している。 ・ノーマライゼーションの見点から、高齢期になっても誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解している。 	
	6章 衣生活をつくる 第1節 人の一生と被服 第2節 被服材料と管 第3節 これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の持つ保健衛生的機能と社会的・文化的な機能を生かし、望ましい着装について考えることができる。 ・取り扱い表示の種類と意味、サイズ表示の見方について理解している。 ・さまざまな用途や目的に応じて開発された新しい被服材料について知り、身のまわりの布に関心を持つことができる。 ・被服の劣化を防ぐための方法を知ること、適切に管理することの重要性を理解している。 ・衣生活の面からできる、環境に負荷を与えない行動を考え、実践することができる。 	
	2章 次世代をはぐくむ 第1節 子どもの発達 第2節 子どもの生活 第3節 子育て支援と福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠から子どもの誕生までの母体の健康管理、胎児の発育と母体の変化を学び、生命の尊さへの認識を深めることができる。 ・身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解している。 ・社会的自立のためには、子どもの発達に応じて基本的生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割であることを理解している。 ・健康管理と安全への配慮などについて理解している。 ・社会環境の変化による問題などを取り上げ、子育て支援の必要性について理解している。 ・子どもの福祉や、現代の子どもを取り巻く社会環境の課題について理解している。 	
3 学期	8章 経済生活をつくる 第1節 私たちの暮らしと経済 第2節 消費者問題を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の収入と支出を通して家計の構造を理解している。 ・消費者被害の事例を通して、被害の状況を理解し、その原因を考えることができる。 ・消費者の権利の保障とともに、消費者一人ひとりに責任があることを理解している。 	学年末考査
	4章 ともに生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的制度、社会福祉の基本的な理念、ともに支え合って生きる社会の考え方について理解している。 	
	1章 これからの生き方と家族 第1節 生涯の生活設計	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目指すライフスタイルを実現するために、生活設計を通し、生涯を見通した中で青年期をどのように生きるかについて理解を深めることができる。 	